

第8回 高知港海岸景観・利便性等検討会

議 事 概 要

I. 開催概要

日 時 : 令和4年10月24日(月) 10:00~12:00

場 所 : 高知プリンスホテル ダイヤモンド・ホール

出席者 : 以下のとおり

【委 員】

磯部 雅彦 (高知工科大学 学長)
重山 陽一郎 (高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻 教授)
原 忠 (高知大学 教育研究部 自然科学系 理工学部門 教授)
大倉 美知子 (カラーオフィス PERSONAL 代表)

【関 係 者】

吉永 昌弘 (高知県 土木部 港湾・海岸課 課長) (代理出席)
有澤 聡 (高知市 防災対策部 部長)
福留 正充 (高知市 都市建設部 副部長) (代理出席)
久松 昌弘 (高知市 商工観光部 観光企画課 課長) (代理出席)
酒井 敦史 (国土交通省 四国地方整備局 港湾空港部長)
新名 薫 (国土交通省 四国地方整備局 高松港湾空港技術調査事務所長)
野呂 茂樹 (国土交通省 四国地方整備局 高知港湾・空港整備事務所長)

II. 議事概要

○『桂浜公園の整備計画（案）』に関する意見

検討会における主な助言、意見は以下のとおり。（主に資料3に関連）

◇全体計画について

1. 桂浜側は土地に余裕がないところであり、安全性、防災の確保という命題をクリアしたうえで、景観・利便性をどこまで高めていけるか、ここまで検討しいろんな工夫がされてきたと思う。
2. 現在の東浜は海浜植物が繁茂しており、それを遠くから見るのも観光材料となる。
3. 龍馬と海は他の観光地と差別化できる要素。新しい視点場に変期待をしている。
4. 現場の運用の観点から、メンテナンスのしやすさ、工法による工期への影響、駐車場台数への影響等の課題があるため、今後の実施設計時に調整していきたい。

◇津波避難計画について

5. 避難ルートは慎重に考えないといけない。津波被害をよく理解している高知県民ではなく、観光客、外国人や釣人などの避難に対し、迅速性を担保する必要がある。特に、一番遠い所である北側と東側の護岸結束点からの経路は、龍馬像付近に一時避難することを前提とするのか、長期避難を想定し高台とするのか、矛盾の無いように議論すること。誘導サインを含め連続性を保ち、どこへ逃げたらよいかわかるようにすることが大事である。
6. 桂浜防波堤の利活用により、避難計画で計算していない所に人が入る可能性があり、距離もあって特に夜間避難などはかなり難しい局面がある。本当に夜間も利用するのか、その場合は避難計画をどう担保するかについて、議論しないといけない。
7. 28ページの避難計画はわかりやすい。東浜に観光客を誘導して良いのかどうか、改めてご検討いただきたい。先日の台風の高波で、県外から来た大学生が亡くなっており、安全性をよく検討していただきたい。これまで東浜はあまり立ち入っていなかったため、安全性についてわからない部分がある。
8. 新しく作る大階段から直接龍馬像の方へ上る階段の整備主体の調整が必要と思慮。直接龍馬像の方へ上る階段がないと、逃げる際に一度本浜側に下りて、上り直すという行

動が必要になる。関係する行政の方々に解決していただけると、皆さん喜ばれると思うのでお願いしたい。

9. 基本は龍馬像までではなく収容避難所まで誘導することになるため、ハード整備だけではなくサインも含め全体のシステムとして機能するよう、本日の委員の意見を踏まえ、ぜひ実現していただきたい。
10. 現状は桂浜荘、坂本龍馬記念館を指定緊急避難場所としており、地域の皆さんと避難訓練を行ってきた経緯もあるため、龍馬像高台を一時避難所とすることについては、今後の検討事項と理解。
11. 桂浜防波堤は原則人が立ち入らない場所となるが、イベントの仕方や利活用のルール作りを考えたい。東浜の利用は、痛ましい事故もあったが、どういった制限をするかが一番重要であり、港湾管理者と海岸管理者である県と市役所が話し合い、ルールを十分に検討していかなければならない。

◇護岸の構造形式について

12. 東側護岸を自立矢板式とする場合、龍馬像の近くに岩の露頭したところがあるため、鋼管杭が入らない事象が起こると考えられる。仮に重力式と矢板式との併用とする場合、結束点の処理が問題となる。以前高知海岸の整備で、当初矢板式としていたが、岩が出て重力式にならざるを得ない場所が出て、再度議論した記憶がある。ボーリング結果を踏まえ、議論が必要。
13. 北側護岸について、海上保安庁の建物周りの洗掘対策はどうするか。建物を解体することは現実的ではないが対策を考える必要がある。東日本大震災において、家屋付近が弱部となり重力式護岸が転倒することがあった。

◇護岸の景観向上対策について

14. 色彩について、休憩所の事例のように、新しいコンクリートの色であるライトグレーは、桂浜の砂浜に調和して圧迫感の軽減に繋がりが良いと思っている。高さがあっても高知警察署の事例のように、少し影ができることによってデザイン性が生まれる。凹凸をつけ、高明度7以上を組み合わせることで壁面に変化を出している。
15. 景勝地として弓状の砂浜の美しさがあるため、アール（曲線、曲面）を意識したデザインに努めてほしい。

◇詳細設計時の細部デザインについて

16. 自然素材色が望ましく、塗装は極力避けていただきたい。高欄なども改めて塗り直すことがないようにしたい。高欄は波を意識したようなデザインでナミナミの形状にすることで、スケートボードに使われないようにしたり、やけどをしない材質にする等、安全性を確保してほしい。
17. 現地の管理会社に相談してメンテナンスしやすい形状を選定してほしい。観光地としての印象が悪くなることを未然に防ぐデザインが必要。地面部分は、海風で砂が溜まりやすく虫や魚の死骸等が残るため、自浄作用が働くよう直線のデザインをお願いしたい。なだらかな傾斜も雨がごみを洗い流してくれる。駐車場は西日が反射するため、光沢のある仕上げは使わないようにしてほしい。
18. 避難経路は、どこにいても同じ色で示してほしい。月の名所ということもあり、夜間利用時にブラックアウトしても、地面に蓄光素材を埋め込む等、初めて来た人がわかりやすく逃げられることが望ましい。サインのアクセントカラーは、五色石をイメージした色を上手に活用するとよい。龍馬像付近は道が二手に分かれており、現状のサインはわかりにくいいため、速やかに逃げられるようにしてほしい。

○『津波防波堤（千松公園側、桂浜公園側）の親水性検討』に関する意見

検討会における主な助言、意見は以下のとおり。（主に資料4に関連）

◇動線の配置について

1. 千松公園側は避難距離があるため、避難上ネックになる。入念に確認いただきたい。夜間に開放する場合は体制面も含め考えることが出てくる。リスクを分析することを考えた方がよい。観光客にとっても地元にとっても魅力的なスペースになろうかと思うので、安全性をもう少し検討されるとよい。

◇デザインおよびイメージパースについて

2. 構造上大丈夫ならば、両サイドからアール（曲線、曲面）をイメージできるような防波堤があるとよい。将来客船や遊覧船が通る時、優しい感じがして、おもてなしのイメージを観光客へPRできる。様々なところで高知市民の声も聞いたが、アール（曲線、曲面）のデザインに投票が多く、高知市民も柔らかなラインの方をお好みではないかと思う。

3. ケーソンの側面に空気抜きが設けられないか。ケーソンとケーソン上の歩廊でコンクリートの色が全く違うものになるため、面で揃えてしまうと違和感が出る。側面にスリットを付けることでデザイン的にはきれいに納まり良いものになる。さらに空気抜きに使えるとよりうまくいくと思う。
4. 上部工の歩廊先端は五角形だが、上部工の下部先端は真直ぐでバランスが悪いため、工夫が必要。下部も先端を張り出すと良いが、それができない事情があると思われるため、考えないといけない。

以上